

2011年度 環境活動レポート

＜対象期間： 2011年10月～2012年3月＞

株式会社マツダアンフィニ青森

2012年11月22日発行

1. 組織の概要

1) 事業社名及び代表者

株式会社マツダアンフィニ青森
代表取締役社長 柳谷 章二

2) 所在地

青森県青森市問屋町1丁目3番17号

3) 事業内容

マツダブランドの乗用車・商用車の新車販売
中古自動車販売
自動車部品・用品等の販売
自動車整備業
損害保険代理業 等

4) 事業の規模

店舗数:	新車中古車併売店舗:3店舗
従業員数	52人
年間売上高	11.7億円(平成22年11月1日～平成23年10月31日)
年間新車販売台数	352台(平成22年11月1日～平成23年10月31日)
年間整備入庫台数	11,404台(平成22年11月1日～平成23年10月31日)

5) 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者	常務取締役 氏家 竜紀
---------	----------------

EA21環境推進事務局	サービス課長 太田 健美
-------------	-----------------

TEL: 017-738-7731

2. 対象範囲

1) 初年度対象範囲

#	初年度 対象範囲	店舗名	所在地	延べ床面積 (㎡)	電話番号
1	◎	本社	青森県青森市問屋町1丁目3番17号	907	017-738-7731
2	◎	問屋町店	青森県青森市問屋町1丁目3番17号		017-738-7731
3		弘前店	青森県弘前市大字高崎1丁目2番3号	974	0172-28-3911
4		八戸店	青森県八戸市売市2丁目11番9号	446	0178-24-5231

2) 対象範囲拡大計画

2015年度までに全3拠点の認証取得予定。

2011年度：本社及び問屋町店

2013年度：八戸店

2015年度：弘前店

環境方針

<基本理念>

株式会社 マツダアンフィニ青森は、自動車販売・自動車整備・保険などの全ての事業活動において、自然との調和を図りながら、地球環境の保護と豊かな社会づくりを目指してより良い商品の提供と革新を続けます。

<行動指針>

- 環境に関する法規制を遵守します。
- 限りある資源を大切にすため、省資源・省エネルギー・節水に努めます。
- 使用済み自動車の適正処理、リサイクルを推進します。
- 循環型社会に向けて、廃棄物の削減・再使用・再利用活動を推進します。
- 環境に配慮した製品の提供及びグリーン購入を推進します。
- 環境改善目標を定め、継続的な環境改善活動を実践します。
- 全従業員にこの環境方針を周知徹底するとともに、環境活動レポートを作成し、公表します。

制定 平成23年8月1日

株式会社マツダアンフィニ青森

代表取締役社長

柳谷章二

4. 環境目標

1) 環境負荷の現状

項目	単位	2010年度 (2010/4-2011/3)	
二酸化炭素排出量	kg-co2	189,166	
電力使用量	kWh	105,671	
化石燃料	ガソリン使用量	L	26,915
	軽油使用量	L	6,191
	灯油使用量	L	24,453
	都市ガス使用量	m ³	0
	LPガス使用量	m ³	1,435
廃棄物排出量	kg	1,280	
水使用量	m ³	976	
グリーン購入	%	-	
エコカー販売	台	23	
エコ整備の拡大	台	126	

2) 環境目標

項目	単位	2010年度実績 (基準年度)	目標			
			2011年度	2012年度	2013年度	
二酸化炭素排出量	kg-co2	189,166	187,274	185,382	183,491	
	基準年度比		99%	98%	97%	
電力使用量	kWh	105,671	104,614	103,557	102,500	
	基準年度比		99%	98%	97%	
化石燃料	ガソリン使用量	L	26,915	26,645	26,376	26,107
		基準年度比		99%	98%	97%
	軽油使用量	L	6,191	6,129	6,067	6,005
		基準年度比		99%	98%	97%
	灯油使用量	L	24,453	24,208	23,963	23,719
		基準年度比		99%	98%	97%
LPガス使用量	m ³	1,435	1,420	1,406	1,391	
	基準年度比		99%	98%	97%	
一般廃棄物排出量	行動目標		取り組みを検討します	取り組みの基準値を把握します	削減取り組みを行います	
廃棄物排出量	kg	1,280	1,267	1,254	1,242	
	基準年度比		99%	98%	97%	
水使用量	m ³	976	966	956	947	
	基準年度比		99%	98%	97%	
化学物質使用量削減	行動目標		・化学物質の購入量と使用量を把握し、適正に管理し、定期的に確認します			
グリーン購入 (エコ対象事務用品購入比率)	行動目標		取り組みを検討します	取り組みの基準値を把握します	削減取り組みを行います	
エコカー販売台数 (SKYACTIV販売台数)	台	23	46	58	69	
	基準年度比		200%	250%	300%	
エコ整備の拡大 (バックメンテナンス販売台数)	台	126	132	139	145	
	基準年度比		105%	110%	115%	

5. 環境活動計画

1) 二酸化炭素排出量の削減

① 電力使用量の削減

- メジャーサインの点灯・消灯設定の確認
- 昼休憩時の本部事務所消灯実施
- エアコンの温度設定確認

② 燃料使用量の削減

- 暖房機器の設定温度確認
- ショールーム床暖房温度確認
- 代車車両の返却時満タン返却依頼実施
- デモカー・本部車両のAC設定温度管理
- 不要なアイドリング禁止

2) 廃棄物排出量の削減

- 産業廃棄物分別の徹底
- マニフェスト伝票の確認

3) 水使用量の削減

- 屋外水道へのストップノズル設置

4) グリーン購入の推進

- 2012年度はグリーン購入取り組みを検討

5) 製品及びサービスにおける環境配慮

- 総販売台数に占めるエコカー比率アップ
- メンテナンスパック商品の販売件数アップ

6. 環境目標の実績

2011年10月-2012年3月運用期間の目標と実績

- ：目標達成
 △：削減できたが目標未達又は前年比5%未満の増加
 ×：前年比5%以上の増加

項目	単位	2010年度実績 (10月-3月)	2011年度10-3月			
			目標	実績	評価	
二酸化炭素排出量※	kg-CO2	118,537	117,351 99%	122,069 99.3%	△	
電力使用量	kWh	52,469	51,944 99%	48,546 92.5%	○	
化石燃料	ガソリン使用量	L	13,019	12,888 99%	12,458 95.7%	○
	軽油使用量	L	3,219	3,186 99%	2,997 93.1%	○
	灯油使用量	L	21,101	20,889 99%	22,715 107.6%	×
	LPガス使用量	m ³	1,148	1,033 99%	959 83.5%	○
水使用量	m ³	450	405 99%	545 121.1%	×	
廃棄物排出量	kg	450	445 99%	298 66.3%	○	
グリーン購入			2011年度は2012年度以降の取り組みを検討する			
エコカー販売台数 (スカイアクティブ車の販売)	台	10	20 200%	26 260.0%	○	
エコ整備の拡大 (ハックdeメンテの販売)	台	61	65 105%	79 129.5%	○	
化学物質使用量削減			化学物質の購入量と使用量を把握し、適正に管理し、定期的に確認します			

※ 一般廃棄物については今期は取り組みを検討し、2012年度から基準値を把握します

※ 購入電力の二酸化炭素排出係数：0.000468(t-CO2/kWh)

(平成21年度の環境省の東北電力実排出係数を使用)

7. 環境活動の取組結果と評価、次年度の取組内容

1) 二酸化炭素排出量の削減

① 電力使用量の削減(基準年比99%の達成)

<取組結果>

- 購入電力量は前年比92.5%で目標値を達成することができました。
- メジャーサイン点灯時間管理、昼休みや不使用場所のこまめな節電が効果的でした。

<次年度の取組>

- 不必要時の電力消費を抑える取り組みを更に推進します。
- 設備改善で使用電力量を減らす取り組みを可能なところから検討します。

② 燃料使用量の削減(基準年比99%の達成)

<取組結果>

- ガソリン、軽油、LPGは目標を超える達成状況でした。灯油は冬期間の厳しい寒さで暖房のための使用量が増え、目標を大きく下回る基準年比107.6%でした。

<次年度の取組>

- 今年度同様に人の動きでできる削減活動は継続的に実施します。
- スカイアクティブシリーズの試乗車を導入しているので、特に軽油の使用量が増える懸念はありますが、ガソリンと軽油のトータル使用量を削減します。
- ショールームの床暖房用ポイラーは古いタイプのものなので、最新タイプへの変更を行うための検討を進めたいと思います。

2) 廃棄物排出量の削減(基準年比99%の達成)

<取組結果>

- 基準年に対して66.4%の排出量となりました。
廃棄物の管理を細分化して、鉄屑を有価物として処分出来たことが大きな削減に結びつきました。

<次年度の取組>

- 廃棄物管理の細分化を徹底することで有価物としての処分量を増やす努力をします。

3) 水使用量の削減(基準年比99%の達成)

<取組結果>

- 上水使用量が基準年比121.1%と大幅に悪化しました。取り組み期間となった1月～3月は例年積雪のためにメーターの検針が出来ず、見積もり計上となっています。基準年となった昨年の使用量は1月～3月の期間で見積りとなりましたが、本年は1月～2月が見積り、3月に清算となっているために基準年との比較が正確に出来ませんでした。

<次年度の取組>

- 節水に関する啓蒙活動をPOPなど使いながら実施します。
- 車両納車準備、中古車商品化に使用する水道の使い方が悪いのでストップノズルを設置します。
- 冬期間のメーター検針について、実測が可能なようにメーター設置部の除雪を徹底します。

7. 環境活動の取組結果と評価、次年度の取組内容

4) グリーン購入の推進

<取組結果>

- 本年度は次年度以降のグリーン購入取り組みについて検討しました。

<次年度の取組>

- 事務用品の「グリーン購入法」適合商品の優先購入に取り組みます。
- グリーン購入法適合商品の購入点数を把握し、次次年度以降の取り組みは事務用品購入の際の「グリーン購入法」適合商品の点数を増やすという活動を行います。

5) 製品及びサービスにおける環境配慮

(エコカー販売:基準年の200% エコ整備の拡大:基準年の105%)

<取組結果>

- エコカー販売はスカイアクティブシリーズとして3車種(デミオ、アクセラ、CX-5)が発売されたことで目標を大幅に上回る260.0%の実績となりました。
- エコ整備の拡大は、「パックdeメンテ」というメンテナンス商品の販売に取り組みました。総契約件数では目標を達成できましたが、重点取り組みの中でも、特に車検時の契約獲得が狙い通りの結果につながりませんでした。

<次年度の取組>

- エコカー販売はスカイアクティブテクノロジー搭載車種が拡大することでさらに販売台数の増加が期待できます。当社はマーケットに対して車種告知を実施していくことで興味をもっていただくお客様を増やすこと。お客様にスカイアクティブテクノロジーをわかりやすくご説明すること。試乗によって商品を体感していただくこと。以上3点に取り組みます。
- エコ整備拡大はパック商品のご購入で定期的なメンテナンスをお買い得な価格で受けて頂くことができるのでガソリンや軽油という化石燃料の消費削減につながるメリットがあることをきちんとご説明できるようにしていきます。また、お勧めのパック商品を社内で統一していくことで、お客様にもわかりやすい商品体系とします。

8.環境関連法規等の遵守状況及び違反、訴訟の有無

- ・ 当社に適用される主な環境関連法規等の一覧表を作成し、それらの遵守状況を確認したところ、環境関連法規への違反はありませんでした。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。訴訟もありませんでした。

9.代表者による全体評価と見直しの結果

《全体評価》

2011年8月にキックオフを行い同年10月より取り組みを開始しました。

エコアクション21の取り組みを開始し、現状の負荷データを把握することで当社が環境にどのようなインパクトを与えているのか、与える可能性があるのかを数値で確認することができ、さらに、どのような取り組みを行うことで環境貢献が出来るのかを検討することができるようになりました。

《取り組みの結果》

冬期間の低温と記録的な豪雪により暖房用の灯油使用量が大幅に増加したことでガソリン、軽油、LPGの使用量を削減できましたが、トータルでの化石燃料の使用量は基準年よりも悪化する結果となりました。

電力使用量は目標を6.5%上回る結果となりました。事務所の蛍光灯やメジャーサインなどの照明、空調をこまめに点灯・消灯した取り組みが効果をあげたものと思われます。

エコカー販売はスカイアクティブ技術の省エネルギー性能が市場に評価された結果、目標を大きく上回る実績となりました。また、メンテナンスパック商品の販売についても目標を上回ることができました。


《次年度への見直し》

次年度以降はエコアクション21の基本活動を確認し、社員の環境改善に対する意識を向上しながら、全員参加での活動に取り組んでいきます。また、設備改善による効果的な資源使用量の削減を検討していきます。自動車ディーラーとして将来の環境貢献のためスカイアクティブシリーズの販売比率を向上し、販売車両の定期的なメンテナンス実施による化石燃料の安定的な消費低減に効果のあるメンテナンスパック商品の販売に取り組んでいきます。

2012年11月19日

代表取締役社長 柳谷 章二

環境活動レポート 取り組み事例

	(なにを)	(いつ)	(どこで)	(どのように)	
消費電力削減	照明	昼休み	事務所、工場、	消灯する	
	エアコン	夏季 冬季	ショールーム 事務スペース 事務スペース	28℃(設定温度) 28℃ " 23℃ "	
化石燃料削減	LPG	11月～4月	給湯室	ガス給湯器の週1回温度チェック ガス量「小」/温度設定「2」	
	LPG		工場	昼食休憩時間中の暖房 不要時使用停止	
	灯油	11月～4月	ショールーム	床暖房用ボイラーの運転を タイマーで実施	
代車車両	貸出時	店舗	満タン返却依頼を実施する		
	産業廃棄物種別(業者)ごとの保管				